

校種間・地域連携を活かした

環境教育の推進

学校と地域を結ぶランドスケープコーディネートの実践例 part3。
高校生の若い力を活かして環境問題に取り組む。

はじめに

私たちの身近な緑の空間には「自然」という言葉に対して、人間の意図的な「自然風景」も含まれる。現在、環境保全についての基本的な共通理念として「持続可能」という言葉が、国際的に広く認識されている。このように、「緑の空間」を創造するには持続可能かどうかはまず問われる。このことから環境のとらえ方も「循環」・「生物多様性」・「生態系」・「共生」・「有限性」・「保全」と6つのカテゴリーを認識し、多面的な活動に取り組むことが大切である。今年度「緑地デザイン科」では、これまでの活動実績に加え、学年ごとに継続した環境教育に取り組んでいる。

活動目標

私たちは、平成19年4月滋賀県環境学習支援センターから地域コーディネートによる共同活動の依頼を受け、能登川南小学校5・6年生の猪子山森林再生整備活動を実施して6年目となる。また、平成23年度より環境教育モデル校、エコ・スクール、しが環境教育リーディングの研究事業の指定を受け来年8月に行われる「環境教育フォーラム」においてこれまでの活動を紹介できるよう取り組んでいる。また、今年度も各学年発達段階的にテーマを設け、実践し経験を積んだ。

平成25年度の取り組み

第1学年「ともに学び、活動できる人作り」

一年を通して、科目「農業と環境」と「総合実習」の中で環境に対する意識の高揚をはかり、副教材として「琵琶湖と自然」を活用した滋賀の環境について基礎基本を学ぶ。また実践活動では、校内の植物調査に加え、地域の河川の水質調査の方法について学ぶ。

第2学年「若い力を地域に活かす町づくり」

1年を通して、科目「総合実習」の中で地域環境に関する具体的な活動を通して、町づくりを観

点とした住みやすい環境作りについて学ぶ。今年度は、8月8日五智町筏川の河川敷整備作業をはじめ、尻無町「水源の森」の環境整備実習。また、8月9日には3年生とともに能登川南小学校との猪子山森林再生プロジェクトに参加した。また、環境学習の一環として、12月に「河辺いきもの森」を会場に森林生態系の内容から里山保全の基礎を学ぶ。



H25.8/8 五智町筏川整備(2年生)



H25.8.5 尻無町「水源の森」整備(2年生)



H25.12/14
「河辺いきものの森」研修(2年生)

第3学年 「具現化した環境学習の実践」

科目「総合実習」・「課題研究」の中で能登川南小学校5・6年生の2年間を通して計4回の活動を実施し、今年で7年目を終える。

◎活動実施日と内容

平成25年5月17日(月) 13:00~15:20

小学6年110名 高校3年18名

内容：「6年生による下刈り作業」



今回は6年生を主体にこれまで植樹した落葉樹の下刈り作業を行う。また同時に刈った草を根本に敷き詰め、小学生に「緑肥」として活用する資源循環を学んでもらう。

平成25年8月9日(金) 9:30~12:00

内容：森林生態に関する説明会・竹藪の伐採整備・5年生による下刈り作業

小学生200名 高校生3年10名+2年14名

今回は、小学生・高校生ともに2学年での取り組みとなり、体育館において「猪子山の生態環境」について発表会を実施し、活動に対する意義を伝えることができた。



平成25年11月1日(金) 11:00~15:40

内容：「竹垣準備作業」高校生3年10名

平成25年11月8日(金) 11:00~15:40

小学生5年生123名・高校生3年38名

内容：「竹垣制作」



竹垣作成の様子

まとめ

今年度8月6日に米原・文化産業交流会館にて「エコ・スクール」発表会に参加し、小中・高校の環境学習について交流を図れた。



今後の課題

本年度の研究活動通していよいよ来年度「しが環境教育リーディング事業」の提携校との連携プランを検証する。また、「人と社会生活」をテーマに、より体験と校種間交流を重視した探求的な学習内容をつくり上げていくと共に、より効果的な指導を目指したコーディネート方法を考えていきたい。

学校名	滋賀県立八日市南高等学校
住所	東近江市春日町1-15
電話番号	0748-22-1513
E-mail	yokaichiminami-h.@shiga-ec.ed